

トピックス

ふるさとの味「甘梅漬」

日本農業新聞主催の「2009」一村逸品優秀賞に、JAいわき市女性部高萩支部で生産・販売している「甘梅漬」が選ばれ、5月13日に開催された日本農業新聞全国大会において表彰されました。



▲松本ゆり子部長（中央）と執行部の皆さん

同支部が、甘梅漬の加工を始めたのは、今から27年前。当初は、人員や機材の不足などの問題もありましたが、部員の協力のもと思考錯誤を繰り返し、10年後には本格的な販売が始まりました。その熱心な取り組みが実を結び、平成13年には、いわき市農林業賞を受賞。現在は、下は58歳から上は80歳の、活気溢れる40名の部員達で甘梅漬の加工に取り組んでいます。

この甘梅漬には、地元である小川産の梅のみを使用しており、豊かな風味とカリカリとした食感が人気です。100%無添加にこだわっており、この鮮やかな赤色は朝取りの新鮮な紫蘇から出る、自然の色だそうです。

今年は6月末に3トンの梅を漬け込む予定です。漬け込みには一週間、その後じっくりと3ヶ月かけて熟成させていきます。高萩支部の女性部長を務める松本さんに今後の目標を伺うと、「部員で協力し合って、地元の味をこれからも守り続けていきたい」と笑顔で話してくれました。

販売は10月半ばを予定しており、販売先は新鮮やさい館（谷川瀬店・平窪店のみ）、JAいわき市小川支店など。郵送でも受け付けています。

【甘梅漬専門ダイヤル】0246(83)0025

いわきトマトの消費拡大に向けて

6月2日（水）、いわき駅ビル3Fに農業生産法人「とまとランドいわき」の直営店である「いわき駅ビル店」がオープンしました。とまとランドのトマトに加え、周辺農家の皆さんが、毎日新鮮な野菜を持ち寄って販売しています。

そのほかに、大人気のトマトジュース、トマトジャムを使ったロールケーキなどの加工品も販売しています。

営業時間は午前9時から午後8時までで、年中無休です。ぜひお立ち寄りください！



地区だより
《東部地区》
（平・内郷・片岡・三和）
取材・執筆・写真
浪邊一雄 委員

清流を守り続ける
愛谷江筋とあじさい祭り

毎年7月上旬の日曜日。夏井小学校をメイン会場

に、愛谷江筋愛護会主催による「あじさい祭り」が、地域住民ボランティアの協力のもと開催され、多くの家族連れで賑わいます。これは、水路脇をあじさいの花でいっぱいにする事で、江筋流域の環境美化、水路



▲あじさい散歩道ウォーク

六千株のあじさいが延べ5キロメートルに渡り植生され、6月から7月にかけて見事に開花します。このほか、あじさい散歩道ウォーク、川柳大会、金魚すくい、江筋筏下り等多彩なイベントが用意されています。今年は7月4日（日）に開催されます。



▲江筋の筏下り



▲愛谷江筋頭首工

愛谷江筋とは、夏井川を水源として、赤井地区愛谷堰から好間町、平市街地を通り、北白土、夏井、高久に至る延長21キロメートル、受益水面面積330ヘクタールの灌漑用水のことです。平藩主内藤公の命を受けた三森治右衛門が、江戸時代初期延宝2年（1674年）から5年の歳月をかけ、苦勞の末に完成させたといわれています。

当時の農民達は、治右衛門に大変感謝したそうで、現在も神として水守神社に祀られています。現在、水路については愛谷堰土地改良区が維持管理し、年2回草刈や清掃作業を行っています。5月には水守神社祭礼が盛大に執り行われ、先人の遺徳を偲びました。

【あじさい祭り問い合わせ】
愛谷堰土地改良区事務所
いわき市平上大字越沼畑1の1
TEL 348015

<http://www8.plala.or.jp/aiya/azisai/azisaimatur.htm>



▲愛谷江筋の清掃作業

編集後記

田植えも無事終わって一ヶ月が過ぎました。爽やかな風が田面を吹き渡っています。秋には、豊かな実りを祈りたいものです。

さて、農業委員会だよりも、今回で第149号の発行となりました。今号では、市内各地で活躍される農業者の皆さんを始め、学習田での田植えポスター、耕作放棄地再生利用制度の説明など、変化に富んだ内容でお送りすることができたようです。

我々編集委員も、今年で二年目を迎えました。農繁期中の取材や執筆には骨が折れましたが、第16回農業委員会だより全国コンクールで優秀賞を受賞することができ、苦勞が報われたと思います。今後も、読みやすい記事を目指し頑張りたいと思いますので引き続きご愛読をよろしくお願いいたします。

編集委員

三戸 進 浪邊 一雄
遠藤 靖 齋岡 千春 草野城太郎

